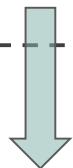


ノウハウのシェアに基づく地域人材育成と地域DAO活用による関係人口創出

取組主体：長野県飯田市 × Airbnb Japan(株) × (株)南信州観光公社

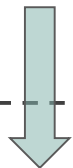
あの人に会いに行く、地域の日常に触れる、家族の一員として過ごす...という世界的な旅行ニーズの高まりを背景に、サステナブルツーリズムやレスポンシブルツーリズムを目指す当市の新たな『いいだツーリズムビジョン』を官民連携の強みを生かして策定。また、空き家活用の実践事例や改修に伴うノウハウ、個人旅行者向けの対応等を学ぶとともに、新たな宿泊事業者や観光資源を商品造成できる地域人材を育成するための合宿型の『エアビースクール』を開講。これまでの流れを受けて、天龍峡エリアでは地域DAOによる拠点整備が進行中。

課題 や現状



- ・世界的なニーズとして「サステナブル」への意識の高まりから、持続可能な観光である「サステナブルツーリズム」が注目され「持続可能な観光地域づくり」を戦略的に推進する必要があった。このような中、飯田市が世界から選ばれる観光地となるためには、世界的潮流を捉えた「サステナブルツーリズム」に取り組む必要があった。

解決策や アイデア



- ・ Airbnb Japan(株)のノウハウと(株)南信州観光公社の取組経緯等をベースに、新たな飯田市の観光の方向性である「滞在交流型観光」「レスポンシブルツーリズム」「サステナブルツーリズム」を推進していくことを理解いただくための『いいだツーリズムビジョン』を策定。この中では「誰もが飯田市の自然、伝統、文化、歴史に触れられ、誰もがプレイヤーとして活躍できる地域」をビジョンに掲げ、地域も旅行者も双方にとってより良い地域となるよう「持続可能な観光地域づくり」を多様な主体の連携により目指していくことを明文化する。特に、ニッチやサステナブルな旅が求められ、人に出会う、観光地化されていない地域への関心、地域への貢献意欲の高まりなどを踏まえ、旅の行動・旅行者の意識の変化が見られ、個人旅行の増加、滞在期間の伸長、量から質へシフトしている部分にこそ新たな可能性があることを示し、具体的な『エアビースクール』やディープな“本物の日本の田舎”体験事業に発展させる。

- ・ キャッチコピーは「いい、あいだ」。「もてなす」と「もてなされる」。「日常」と「非日常」。その「あいだ」にある地域の文化や暮らしに触れて交流し、関与して参画し、役割を担い合い、協働して頼り合う暮らしの体験こそ「滞在交流型」の観光地域づくりで、これにより「一泊からの住民」の増加を目指す。

取組状況 や成果

- ・ 空き家活用の実践事例や改修に伴うノウハウ等を学ぶことができる合宿型の『エアビースクール』を開講。
- ・ 田舎の日常にある“あたりまえ”のありがたみやあたたかさを再発見し、観光を超えた地域住民との深いつながりを通じて得ることのできる唯一無二の体験を『THE INAKA -TENRYUKYO・IIDA CITY-』としてインバウンド旅行商品の造成につなげた。
- ・ 協定締結以降、当地域の宿泊数は2.8倍、Airbnbホストの総収入は7倍に。また移住者は2.8倍、Uターン者は3.5倍に増加。
- ・ こうした取組を経て、2024年11月に地域有志メンバーにより天龍峡NFTが発行され、地域DAOによる拠点整備が進行中。

『いいだツーリズムビジョン』の策定

「誰もが飯田市の自然、伝統、文化、歴史に触れられ、誰もがプレイヤーとして活躍できる地域」という方針を打ち出した。

レスポンシブルツーリズム（責任ある観光）

「責任ある旅行者になるために推奨される行動」

- 1 その土地の環境や文化等に配慮した旅行商品の利用
- 2 自然環境への負荷軽減を意識した行動
- 3 地元産品の消費や購入
- 4 ソーシャルディスタンスの実践と混雑の回避
- 5 訪問地の文化や慣習、マナー等の尊重
- 6 ガイドの利用等による訪問地に関する深い知識の習得
- 7 旅行先でのポジティブな経験の発信

サステナブルツーリズム（持続可能な観光）

大自然の恩恵を受けて、受け継ぎ守られてきた伝統にふれあい、旅を楽しむためのアプローチ。

- 1 自然をより近くに感じ、その大切さや美しさを体感する
- 2 永くその土地で受け継がれてきた文化・伝統を体験する
- 3 地産地消。地元ならではの郷土の味、グルメを楽しむ
- 4 より長く滞在し、魅力を深く掘り下げることができる

旅行者の満足度をあげる取り組みを意識

- ・ Airbnbによる助言
- ・ 南信州観光公社との協議
- ・ 市民による実践

これまで取り組んできた農家民泊をはじめ体験型観光は、新しい旅のアプローチの土台となり得るのでは…

★農家民泊・体験プログラム・・・初めて出会う人との交流が生まれ、人の温かさやありがたみを感じ、人の生き方や考え方を知ることができる。

また、体験プログラムはゆっくりと時間をかけるものばかり。瞬間的な感動ではなく、じっくりと時間をかける。失敗体験も重要。

★自然と生きる豊かさ・・・人がこれまで繰り返してきた農作業、森林作業を体験。

★人の和を育む力・・・農家さんとの交流、コミュニケーション力、作業における協調性。

取組の詳細

「観光地域づくり」の方針を共有

観光地に訪れてもらうだけの「観光地づくり」ではなく、地域の方との交流や暮らしの体験、日常体験を目的とした「観光地域づくり」を目指す。

観光（交流人口）と移住（定住人口）の取組を、一連の流れと捉える新たな関係人口創出のアプローチによって通年通して地域全体の暮らしが潤い、訪れる人が故郷を感じる「観光地域づくり」へ。

観光政策へ

インバウンドツアー企画

THE INAKA—TENRYUKYO・IIDA CITY—

田舎の日常にある“あたりまえ”のありがたみやあたたかさを再発見し、観光を超えた地域住民との深いつながりを通じて得ることのできる唯一無二の体験を『THE INAKA—TENRYUKYO・IIDA CITY—』としてインバウンド旅行商品の造成につなげた。



いい、あいだ。

世界の人々が求めている「ひと起点」の観光。

それは、地域の暮らしそのものが目的地に、日常の暮らしそのものが観光になり得る可能性がある。

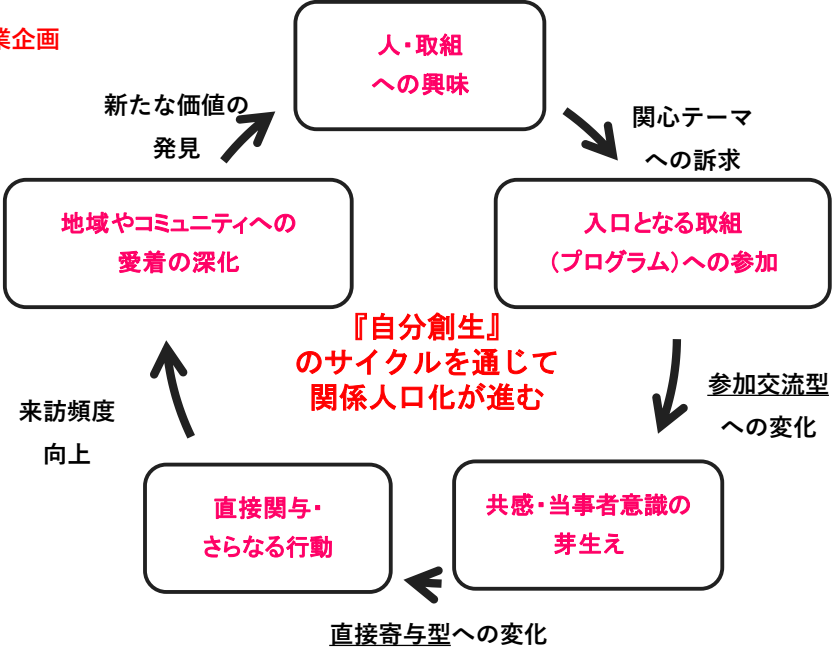
地域の日常を求めて人が集まることで、地域の暮らしが豊かになり、またひとが集まる。この好循環こそ持続的な地域づくりに必要。

「もてなす」と「もてなされる」。「日常」と「非日常」。

その「あいだ」にある地域の文化や暮らしに触れて、交流し、参画し、役割を担い合い、協働し、頼り合う暮らしの体験こそ、「滞在交流型」の「観光地域づくり」。

豊かな日常を観光の体験価値に変えていくことで生まれる「1泊からの住民」を増やす。

スクール事業企画



取組の詳細

エアビースクール（空き家活用実践講座）

スクール開講の背景と目的

- ・観光と移住との垣根が曖昧になってきており、「関係人口の概念を媒介に、それらを一連の流れとして捉える事」が重要。
- ・「人と人がつながるホームシェアリング」はこれらのトレンドとの相性がよく、地域の窓口となるホームシェアリングが増える事で、地域の主体的な取り組みを引き出す事ができる。
- ・「あの人に会いに行く」、「地域の日常に触れる」、「家族の一員として過ごす」というゲストのニーズが高まっており、世界的な潮流となっている。加えて、「サスティナブルツーリズム」や「レスポンシブルツーリズム」を重要視しながら、「飯田市の価値に共感する人に来てもらえる受入体制」を構築する事が、「DISCOVER ANOTHER HOME」を軸に捉えた飯田市の観光及び持続可能な成長戦略にとって重要。
- ・Airbnbのグローバルの知見と市内天龍峡でのフィールドワークを組み合わせた「合宿型のエアビースクール」を開講し、地域交流や地域資源を活用したビジネスができる地域人材育成を目的とする。
- ・「飯田市をハブとした情報の集積地」、「人材交流の拠点」として、飯田市のブランディングを更に高めると共に「上質なローカル」を実装する。

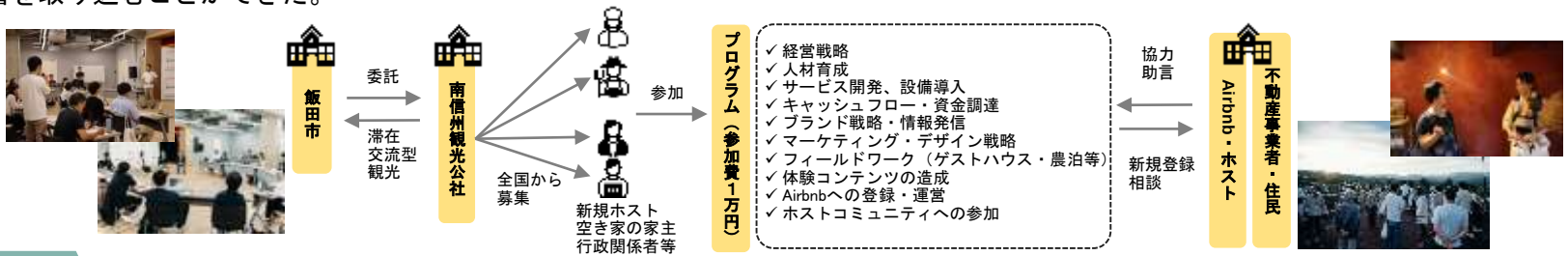
スクールの事業成果

- ・講師陣にはAirbnbからだけでなく、市内で活躍しているプレイヤーを招聘し、これまでの経験や知見を言語化し、地域内でのノウハウの蓄積とシェアを図り、持続可能な推進体制を創ることができた。
- ・空き家を活用して宿泊事業をしたい方や空き家の所有者等を参加ターゲットとして、エアビースクールvol.1・vol.2を通して、全国から計26人の参加者が集まり、座学や現地フィールドワーク、振り返りワークショップ等のプログラムに参加。宿は、希望の宿泊施設を選択いただき、ホストとの交流も行った。
- ・特に、宿をやりたいということだけではなく、社会課題や地域課題に照らし合わせて、自分は何ができるのかを可視化するための発表を通して、何故、空き家問題を解決するのかという視点で議論が深まった。全国発の取組としてメディアからの注目も集めた。



持続可能な取り組みとするためのポイント

- 既にある世界的ニーズに基づき、市のツーリズムビジョンを、官民連携により制作・発表したことで「もてなす・もてなされる」という観光分野に限定しない、「関与する」という新たな人の流れを起こす契機となった。
- 地域課題の解決策はいくつもあるという前提に基づき、今までとは異なるアプローチによって進めたことで、例えば、かつての農家民泊は農業という主軸があり「ほんもの体験」をキラーコンテンツにしてきたが、宿泊事業者が農業者になって農家民泊を始めるケースも生まれ、新たな農家民泊（農家stay）の可能性を広げた。
- Airbnbのcreditを使って『エアビススクール』としたことで、単なる空き家活用実践講座ではない、より具体的な活用イメージと講座内容の組立が可能となった。また、参加費を1万円に設定したことで、学びたい熱量はあるが交流もしたい、というバランスの取れた参加者層を取り込むことができた。



付記（任意）

- 「誰もが飯田市の自然、伝統、文化、歴史に触れられ、誰もがプレイヤーとして活躍できる地域」というツーリズムビジョンは、空想ではなく、天龍峡という地域をモデルに、わずか3年で実現できたこと、そして、飯田市が大切にしてきたことを可視化した内容になった。そのため、この実現性は極めて高く、他の地域でも流用可能なビジョンであり、まさにシェアリングエコノミーや地方創生の目指す姿と言える。
- ビジョン策定及びスクール開講までの一連の取組の中で、個人や事業者が持つノウハウを地域にシェアして蓄積し、新たに育成された人材や事業者がまた新たな地域においてノウハウをシェアする動きが生まれ、相互の交流と定期的な来訪を生み出し、宿泊事業や空き家活用等の分野において、飯田で学んだというOBOGのコミュニティ組成につながっている。
- また、こうした動きの中から地域住民の有志メンバーによってNFTが発行され、天龍峡DAOによる新たな拠点整備と交流の機会が生まれ、新たな関係人口創出につながっている。

